

シマシテ、救濟ノ厚薄ハ出來得ル限り窮迫ノ輕重ニ應ゼシムルコトニ致シタノデアリマス、斯ノ如キ趣旨ニ依リマシテ、茲ニ必要ナル追加豫算案及各般ノ法律案ヲ提出スル運ビト相成タノデアリマス。惟フニ經濟界ノ不況ハ、自ラ人心ノ萎縮ヲ招キ、人心ノ萎縮ハ又自ラ不況ヲ誘ヒ、互ニ因トナリ果トナリマシテ、益々不況ヲ深カラシムルノデアリマスカラ、殊ニ此點ニ付イテ警メナケレバナリマセヌガ、幸ニシテ今ヤ疲弊窮迫ノ裡トハ申セ、國民ノ間ニハ國民自ラノ力ニ依テ、不況克服ノ途ヲ取ラントスル自力更生運動ノ興リツ、アルコトハ、眞ニ悅バシキ次第デアリマシテ、政府モ此堅忍不拔ナル精神ノ作興ニ意ヲ用ヒ、此精神ノ下ニ於ケル更生計畫ノ樹立實施ニ對シテ、相當ノ助成ヲ致シ、政府ノ施設ト國民ノ自力更生ト相俟ッテ、衆心一致、此難局ヲ打開スルガ爲ニ邁進シ、國力ノ充實伸張ヲ圖ラントスル次第デアリマス、幸ニ此趣旨ヲ諒トセラレ、速ニ協賛ヲ與ヘラレシコトヲ切望致シマス(拍手)。

整ヒ次第、不日承認實行ノ筈デアリマス  
然ルニ外國ニ於ケル一部人士中ニハ、今  
尙ホ支那ニ對スル帝國ノ態度、殊ニ九月十  
八日事件ノ發生以來、帝國ノ執リ來リン措  
置ヲ十分ニ諒解セズ、又ハ滿洲國ノ成立ニ  
付キ、正當ナル認識ヲ缺キ、剩サヘ帝國ノ  
滿洲國ニ對スル承認ヲ以テ、不法視スルガ  
如キ所說ヲ爲スモノガアリマスルニ顧ミ、  
私ハ此機會ニ於テ從來政府ノ累次宣明シ來  
タ所ト重複スルヲ厭ハズ、是等諸點ニ關ス  
ル我方ノ立場ヲ明カニスルト共ニ、前述ノ  
如ク帝國政府ガ滿洲國ノ承認ヲ以テ、滿蒙  
問題解決ノ唯一ノ方法ト認メマスル所以ノ  
梗概ヲ述べテ、諸君ノ御諒解ヲ得テ置キタ  
イト思ヒマス(拍手)

態度ニ應セントスル誠意ナク、我方ニ對ス  
ル輕侮ト排斥トヘ却テ益、甚シキヲ致シタ  
ノデアリマス、帝國政府ハ支那側ニ對シ、  
日本國民ノ忍耐ヲ試サントスルガ如キ態度  
ノ極メテ危險ナルコトヲ、幾度トナク警告  
シタノデアリマスガ、寸毫モ改善セラル、  
所ナキノミナラズ、却テ愈、惡化シマスル  
一面、忍耐ニ忍耐ヲ重ネ來タ日本國民ノ  
感情ガ、遂ニ極東ニ尖銳化スルニ至リマシ  
タ折柄、帝國ノ生命線タル満蒙ニ於テ、彼  
ノ九月十八日事件ノ發生ヲ見ルニ至リ、我  
方ニ於テハ、敢然トシテ正當防衛ノ行動ニ  
出ヅルノ外ナカッタノデアリマス  
然ルニ右帝國ノ行動ヲ以テ不戰條約ニ違  
反スルモノナルヤノ所說ヲ爲ス者ガアリマ

タノデアリマスガ、是等人士ハ右張良政權倒壊ノ機會ヲ利用シ、現實ノ運動ニ著手シタノデアリマス、即チ前述張學良政權ノ事實的解消ノ結果、奉天、哈爾賓等ニ治案維持會ガ成立シマシタガ、我方トシマシテハ、滿蒙ニ於ケル治案維治ノ責任上、是等維持會ニ對シ必要ノ援助ヲ吝マナカタノデアリマス、然ルニ是等維持會關係ノ要人等ハ此情勢ニ應ジ、蹶然起テ遂ニ新國家ヲ創建スルニ至タノデアリマス、要スルニ滿洲國ノ成立ハ、同地方ガ支那本部ニ對シテ有スル地理的、歴史的及住民心理上ノ特異性ヲ背景トセル獨立運動ノ結果ニ外ナラナイノデアリマス

要ナル原因ガ、支那ノ混亂セル狀態ニ加フ  
ルニ、過激思想ノ顯著ナル影響ヲ受ケタル  
排外的革命外交ノ遂行ニ存スルコトハ、何  
人モ争ヒ難イ所デアリマス、而シテ右支那  
ノ異常ナル狀況ニ依ル最大ノ被害者ガ日本  
デアルト云フコトハ、申スマデモアリマセ  
ヌガ、其他ノ列國モ亦忍ズベカラザル侮辱  
ト、堪ヘ難キ災害ヲ被リ來タ次第デアリ  
マス、然ルニ斯ノ如キ事態ノ匡正ヲ聯盟規  
約其他所謂平和維持機關ニ求ムルノ至難ナ  
ルコトハ、苟モ支那ノ實情ニ通ズルモノ、  
直チニ首肯シ得ベキ所ト信ジマス、現ニ  
列國ハ其在支權益ニ對スル重大ナル侵害ヲ  
受ケ、又ハ受クル虞アル場合ニハ、是等ノ  
機關ニ依頼スルコトナク、直接其自力ヲ以  
テ、之ガ匡救又ハ豫防ヲ圖ルコトヲ常トシ  
テ居ルノデアリマシテ、最近ノ事例ノミヲ  
數フルモ枚舉ニ遑ナキ有様デアリマス  
我國ハ支那ガ穩健實ナル方法ニ依リ其  
國運ヲ挽回シ、進ンデ極東ノ平和ニ對スル  
同國ノ使命ヲ、果シ得ル日ノ速ニ到來ゼン  
コトヲ衷心希望シツ、二十餘年ノ久しきキ  
ニ亘リ、極度ノ自制ト忍耐ヲ示シ來タ  
デアリマス、而モ支那側ハ我ガ寛大ナル

スガ、斯ノ如キハ全ク事實ニ即セザル主張デアリマス、帝國ノ存立ト重大ナル關係ヲ有スル權益ニ對スル支那側ノ暴戾ナル侵害ニ對シ、我方ニ於テ眞ニ已ムヲ得ズシテ起チ、之ガ防止ニ必要ナル行動ニ出デタモノナルコトハ前述ノ通りデアリマス、不戰條約ハ此種ノ場合ニ於ケル自衛權ノ行使ヲ制限スルモノデハアリマセヌ、即チ同條約ハ締約國ガ其判断ニ基キ、自國ノ領土及一切ノ權益ニ對スル危險ヲ防止スル爲メ、必要認ムル措置ヲ執ルコトヲ禁止シテハ居ラナイノデアリマス、又右自衛權ノ行使ハ、行使國ノ領土外ニ及ビ得ルモノナルコト明デアリマス、帝國ノ行動ハ、他ノ列國ガ同様ノ場合ニ執リマシタ措置ト、其本質ヲ同ジウスルモノデアリマス

右ノ如ク我方ニ於テ自衛行動ニ出デマスルヤ、張學良政權ニ屬シテ居リマシタ官吏ノ大部分ガ、或ハ逃亡又ハ辭職シ、該政權ノ事實的解消ヲ見ルニ至リマシタコトハ御承知ノ通りデアリマス、然ルニ滿蒙ニ於キマシテハ、豫テ同地方ヲ以テ支那本部ニケル内亂ノ渦中ニ投ズルコトニ反対シ、且ツ累年ニ瓦ル張家ノ悪政ヲ憎惡スル有識人士ノ間ニ、政治改革ノ機運が醸成シツ、ア。

ノ結果ナリトシ、之ニ對スル責任ヲ帝國ニ  
歸セントスル者モアリマスガ、斯ノ如キハ  
前述ノ事情ヲ認識ゼザルニ基クモノデアッ  
テ、我方ノ容認シ得ベキ限リデハアリマセ  
ヌ、又滿洲國政府ニ、多數本邦人ノ在職シ  
テ居ル事實ヲ以テ、新國家ノ成立ニ帝國ガ  
何等カノ關係ヲ有シ居ルヤニ邪推スル者モ  
アリマスガ、建國草創ノ際、外國人ノ技能  
ヲ利用スルコトハ、幾多ノ先例ガアルノデ  
アリマス、現ニ我國ノ如キモ明治維新後、  
多數ノ外國人ヲ官吏又ハ顧問トシテ聘請シ  
テ居タノデアリマシテ、例ヘバ明治八年  
頃ニ於ケル是等外國人ノ總數ハ、五百名ヲ  
超過シテ居タノデアリマス、要スルニ個人  
タル本邦人ガ滿洲國政府ニ在職セル事實ヨ  
リシテ、前述ノ如キ邪推ヲ爲スハ、僻見モ  
甚ダシキモノデアリマス

自己ノ發意ニ依テ獨立國ヲ建設スルコトヲ禁止スルモノデハアリマセヌ、隨テ九國條約當事國タル帝國ガ、滿蒙ニ於ケル住民ノ發意ニ依リ成立致シマシタ既存ノ滿洲國ヲ承認シマシテモ、同條約ノ規定ニ抵觸スルコトハナイノデアリマス、固ヨリ我方ニ於テ滿蒙ノ併合、其他同地方ニ對シ領土欲ヲ満足セシメントスルガ如キ假定ノ下ニ於テハ、問題ハ別デアリマス、併ナガラ帝國ガ滿蒙ニ對シ、何等ノ領土的意圖ヲ有セザルコトハ、今更多言ヲ要シマセヌ

以上ヲ以テ私ハ支那ニ對スル帝國ノ態度、殊ニ九月十八日事件發生以來我方ノ執り來リシ措置ガ、極メテ正當且ツ適法ノモノナルコト、滿洲國ハ其住民ノ自發的意圖ニ依リ成立セルモノニシテ、支那ニ於ケル分離運動ノ結果ト見ルベキモノナルコト、及ビ斯ノ如クニシテ成立セル新國家ニ對シ、帝國ニ於テ承認ヲ與フルハ九國條約ノ規定ニ何等抵觸セザルコトヲ明ニシタ次第認メマスル所以ニ言及致シタ イト思ヒ

マス

滿蒙問題ノ解決ニ關シ、帝國政府ノ最重キヲ置キマスル所ハ、第一ニ其住民ノ正當ナル要望ガ充々サレ、且ツ帝國ノ權益ガ確保サル、ト共ニ、苟モ舊來ノ排外的施設ノ再現ヲ防止シテ、同地方ニ内外人安住ノ樂重キヲ置キマスル所ハ、第一ニ其住民ノ正當ナル要望ガ充々サレ、且ツ帝國ノ權益ガ確

保サル、ト共ニ、苟モ舊來ノ排外的施設ノ再現ヲ防止シテ、同地方ニ内外人安住ノ樂重キヲ置キマスル所ハ、第一ニ其住民ノ正當ナル要望ガ充々サレ、且ツ帝國ノ權益ガ確

保サル、ト共ニ、苟モ舊來ノ排外的施設ノ再現ヲ防止シテ、同地方ニ内外人安住ノ樂重キヲ置キマスル所ハ、第一ニ其住民ノ正當ナル要望ガ充々サレ、且ツ帝國ノ權益ガ確

然ルニ近時、支那本部政權ヲシテ何等力ノ形式ニ依リ滿蒙ニ關係セシムルコト、シ、以テ一時ヲ糊塗セントスル解決案ヲ考慮スル向モアルヤウデアリマスガ、斯ノ如キハ究極スル所九月十八日事件以前ノ狀態ヲ繰返ス結果ニ終ルベキコト、吾々永年ノ經驗ニ顧ミ何等疑ナシ所デアリマシテ、日本國民ハ右ノ如キ解決案ニ、斷ジテ贊成スルモノデハアリマセヌ、又支那本部政權ノ經験ニ顧ミ何等疑ナシ所デアリマシテ、日本國民ハ右ノ如キ解決案ニ、斷ジテ贊成スルモノデハアリマセヌ、又支那本部政權ノ

滿蒙進出ハ如何ナル形式ヲ以テスルヲ問ハズ、滿洲國政府ノ建國宣言及對外聲明等ニ表示セラレマシタ政治的信條ト、全然相容レザルモノデアリマシテ、滿洲國人ニ於テ之ヲ容認セザルベキコトハ火ヲ階ルヨリモ明デアリマス、滿蒙ニ對シ其人民ノ欲セザル所ヲ強制セントスルガ如キハ、正義ノ觀念ノ許サザル所デアリマスノミナラズ、同地方ニ新ナル紛亂ノ種ヲ蒔クニ外ナラナインデアリマス、要スルニ支那本部政權ノ滿蒙進出ヲ圖ルガ如キ企圖、其他類似ノ不徹底ナル考案ハ、前述ノ如キ滿蒙ヲ以テ内外人安住ノ樂土ト爲サントスル目的ニハ副ハズ、又滿蒙ニ於ケル現實ノ事態ヲ基礎トスベシトノ趣旨ニモ合ハナイモノデアリマシテ、滿蒙自體ノ安定、乃至極東ニ於ケル恒久的平和ヲ招来スル所以デハアリマセヌ之ニ反シ滿洲國ニ於キマシテハ、其建國宣言及對外聲明等ニ、内外ニ對スル極メテ主旨トスペキコト、國際法及國際慣行ニ照係ニ付キマシテハ、正義ト平和ト親善トヲシテ、既存條約上ノ義務ヲ繼承履行スペキコト、外國人ノ既得權益ヲ尊重シ、其生命財產ヲ保護スベキコト、外國人ノ來往ヲ歓迎シ、且ツ各民族ニ對シ平等公正ナル待遇ヲ與フベキコト、外國人ノ經濟活動ニ關シ門戶開放ノ主義ヲ遵守スベキコト、列國トノ通商貿易ヲ容易ナラシメ、世界經濟ノ發展ニ貢獻スベキコト等ノ方針ヲ宣明致シテ居リマスノミナラズ、同國當局ハ右實行ノ十分ナ

ル誠意ヲ有スルモノト認メラル、次第デアリマス、隨テ同國ニ對シ承認ヲ與ヘ、此上トモ同國ガ前述ノ如キ健全ナル政策方針ノ實施ニ邁進シテ參リマスヤウ援助シテ行クコトハ、即チ現實ノ事態ニ基イテ、滿蒙ニシテ、是レ實ニ滿蒙問題ノ恒久的解決ヲ齎フルモノデハアリマセヌ、又支那本部政權ノ滿蒙進出ハ如何ナル形式ヲ以テスルヲ問ハズ、滿洲國ノ政策方針ノ公正妥當ナルコト右ノ如ク、又同國當局ニ於テ、是ガ實行ニ關係ナリ、誠意ヲ有スルコト前述ノ通りデアリマスルヲ以テ、同國ニシテ建國ノ純眞ナル精神ヲ堅持シ、努メテ已マナケレバ、其前途ハ實ニ洋々タルモノガアリマス、世間或ハ同國ニ於ケル匪賊ノ跳梁ヲ過大視シ、或ハ同國ノ財政難ヲ豫断スルガ如キ者モアリマスガ、斯ノ如キ悲觀論ニハ容易ニ左袒スルコトガ出來ナインデアリマス、新興國ニ於テ其建國當初、現下ノ滿洲國ニ於ケルガ如キ不逞分子ノ跳梁ヲ見ルコトハ、世界ニ幾多ノ事例ガアルノデアリマシテ、モアリマスガ、斯ノ如キ悲觀論ニハ容易ニ左袒スルコトガ出來ナインデアリマス、新興國ニ於テ其建國當初、現下ノ滿洲國ニ於ケルガ如キ不逞分子ノ跳梁ヲ見ルコトハ、世界ニ幾多ノ場合ニ於テ是ガ鎮定ニハ相當ノ而モ多數ノ場合ニ於テ是ガ鎮定ニハ相當ノ年月ヲ費ヤシテ居ルノデアリマス、之ニ比較スレバ目下滿洲國ニ於ケル匪賊ノ討伐ハ、良好ナル成績ヲ以テ進行シテ居ルモノト見ナケレバナリマセヌ、又滿洲國ノ財政ハ、同國當局ガ其建國當初ニ於テ豫想シテ居リマシタ所ヨリモ、遙ニ良好デアルト云フコトヲ聞及シ、其領域及人口、殊ニ廣大ナル富源ニ顧ミマシテ、既存條約上ノ義務ヲ繼承履行スベキコト、外國人ノ既得權益ヲ尊重シ、其生命財產ヲ保護スベキコト、外國人ノ來往ヲ歓迎シテ、施政宜シキヲ得バ、必ズヤ富裕ナル國家トナリ、世界各國ニ取テモ有望ナル市場トナリマスルコト、疑問ノ餘地ガアリマセヌ、私ハ斯クシテ滿洲國ガ健全ナル發達ヲ遂ゲ、吾ニ同國三千萬民衆ノ福祉ヲ招來スルノミナラズ、支那本部更生ノ好模範トナランコトヲ期待スルモノデアリマス

○議長(秋田清君) 大藏大臣高橋是清君  
〔國務大臣高橋是清君登壇〕

○國務大臣(高橋是清君) 諸君、茲ニ昭和七年度追加豫算ヲ説明致シマスコトハ、私ノ最モ光榮トスル所デアリマス、今回政府ニ於テ計畫シタル昭和七年度ニ於ケル時局匡救ニ關スル經費ハ、國ノ負擔ニ屬スル分、一般會計ニ於テ一億六千三百餘万圓、特別會計ニ於テ一千三百餘万圓、計一億七千六百餘万圓デアリマシテ、此外地方ノ負擔ニ屬スル分ガ八千七百餘万圓アリマスカラ、結局昭和七年度ニ於ケル時局匡救ニ關スル中